

加工図面作成時の注意事項

図面は、設計者が加工者に必要な情報を正確に伝えるという役割を持っています。また加工者に出来るだけ負担を軽くするように考慮して作成された図面がよい図面といえます。

1. 品物の大きさから尺度と製図用紙の大きさを決める。(テキスト)
(加工者が見やすい図面の大きさ(倍率、縮尺)を心掛ける)
2. 材料切断のために加工物の全長寸法値を必ず記入する。
(加工者に計算をさせない)
3. 寸法の記入の仕方(記入方向や文字の大きさ、線の太さ)は正しいか?
(加工をする際の加工基準面がわかるように寸法を記入する)
4. 倍率はこれでよいか?
5. 本当に必要な加工 R か?
(意味のない指定 R とか C は、無駄な加工時間を発生する)
6. なるべく円筒状の物で加工依頼する。
(意味のない角物は、無駄な加工時間を発生する)
7. 寸法公差について 洩れはないか? 必要以上の公差になっていないか?
(無意味な公差は、多くの加工時間を発生する)
8. なるべく、加工工具の種類を少なくするような図面になっているか?
(ボルトの貫通穴の寸法がバラバラ)
9. CAD で書く図面で立体図か組立図が提出する事が出来るのなら添付して下さい。
(参考までに、寸法公差の記入漏れだとか、不必要な公差をチェックできます)